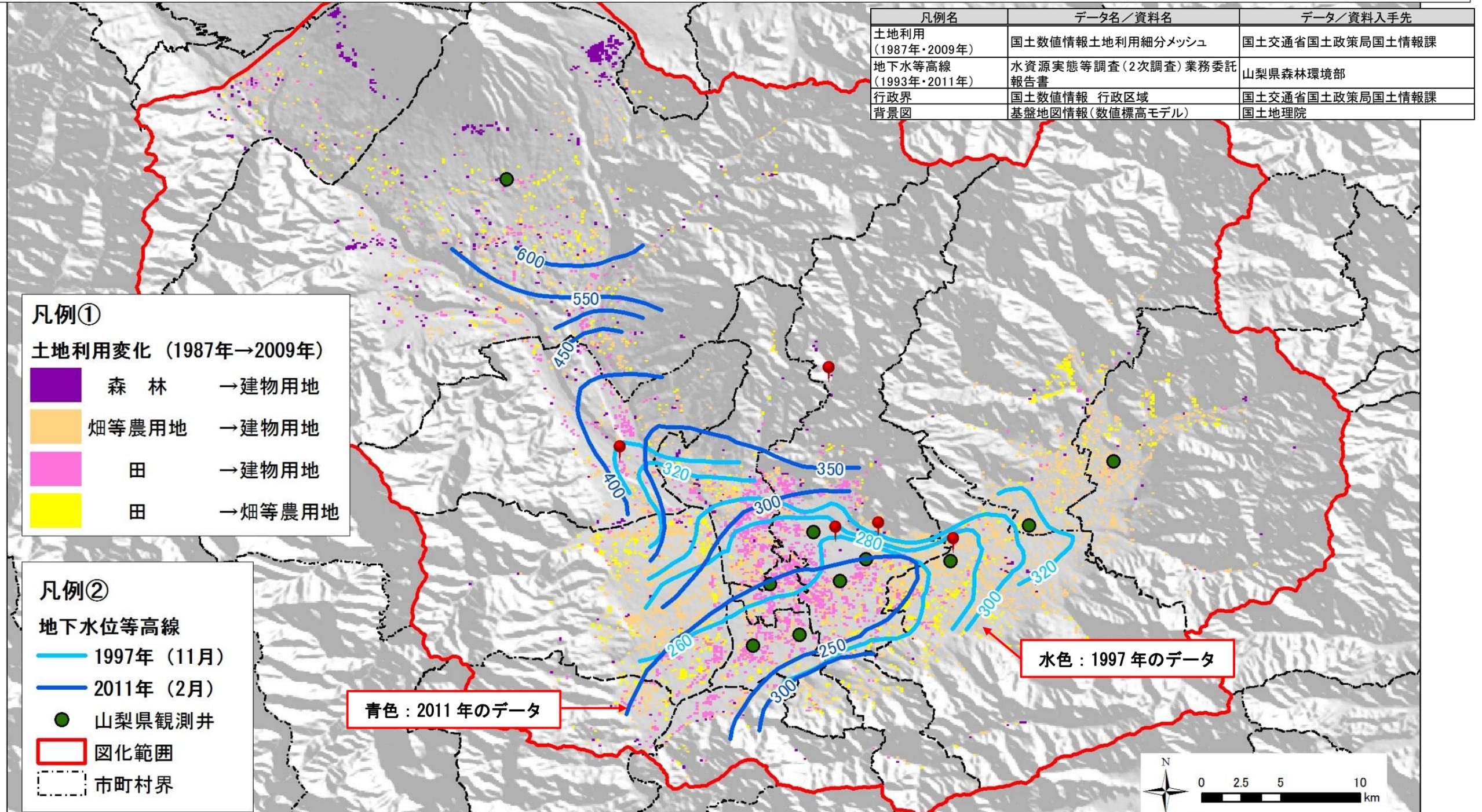


図③：地下水位の変遷と土地利用

甲府盆地における地下水位は、ほとんどの観測井で変化がない。地下水の資源量には、降水量の減少傾向や土地利用変化に伴う涵養面積の縮小など低下の要因があるものの、工業用水の使用量が減少傾向にあるため、相殺されている可能性がある。

都市化の進行による涵養面積のさらなる縮小と降水量の減少といったトレンドからは、今後の地下水位低下が懸念される。地下水の総合的なマネジメントのためには、揚水規制や土地・開発規制のみならず、降水の地下浸透を増大させるような土地利用誘導や透水性を高める事業（水田の湛水事業や透水性舗装の展開等）が期待される。

本マップは、住民の方々に、都市化による地下水への影響や地下水管理の重要性を知っていただくための基礎資料としての活用が考えられる。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平 28 情使、第 6 号)」

注意！！ 本資料の作成にあたっては、専門家の助言をうけておりますが、利活用にあたっては、専門家の監修を受けるようにして下さい。

図6 ほとんどの観測井で変動のない地下水位と減少傾向の降水量

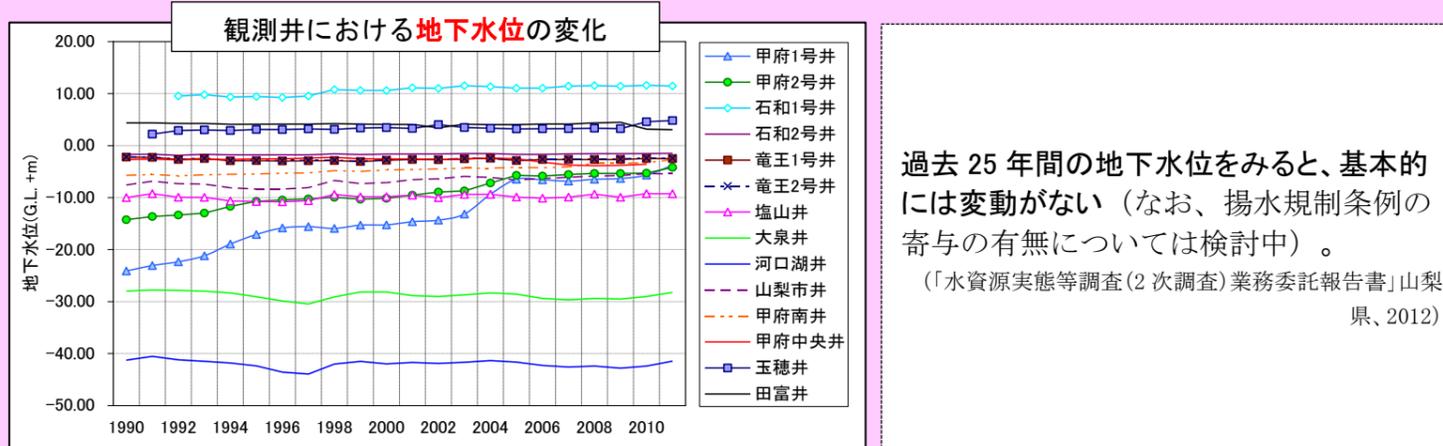
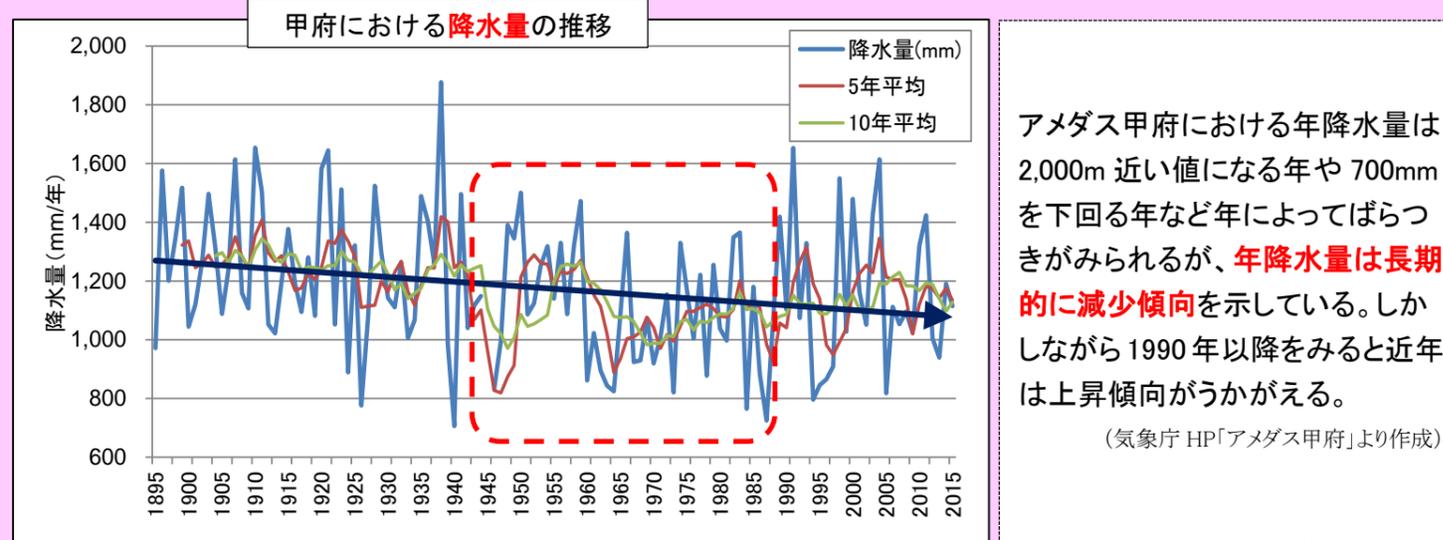
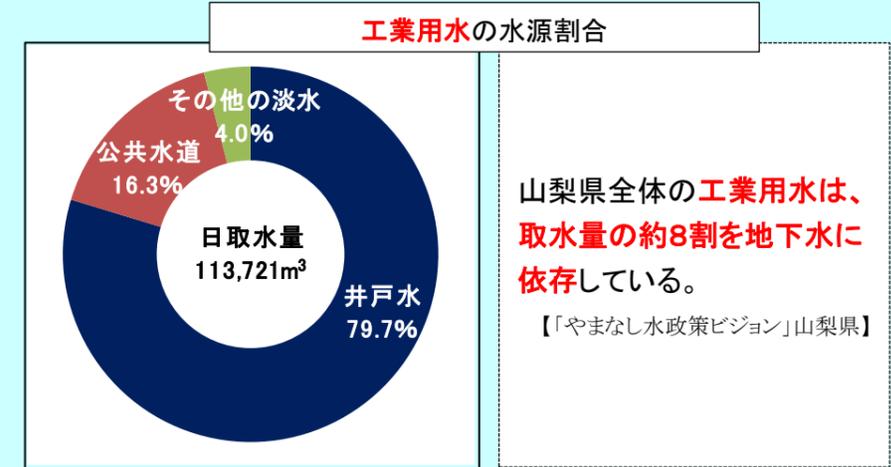
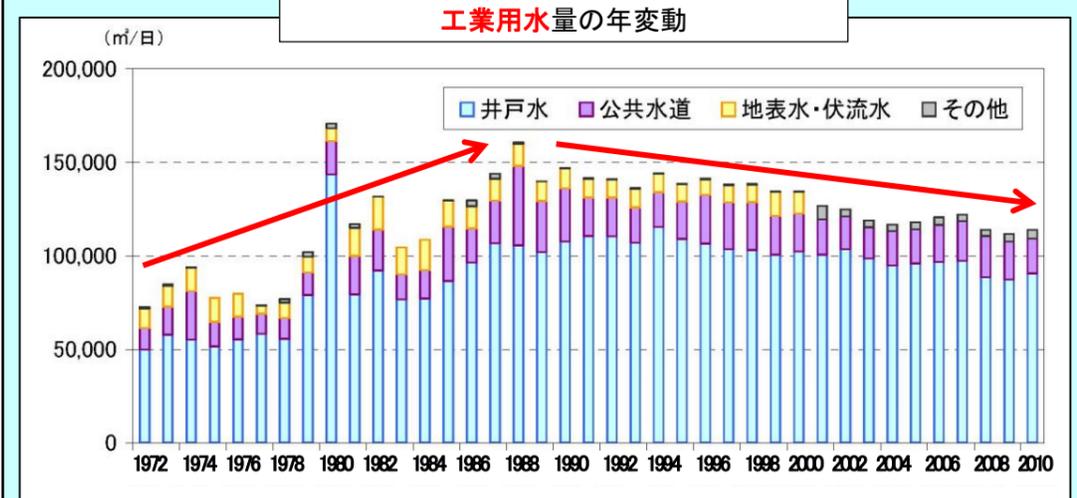


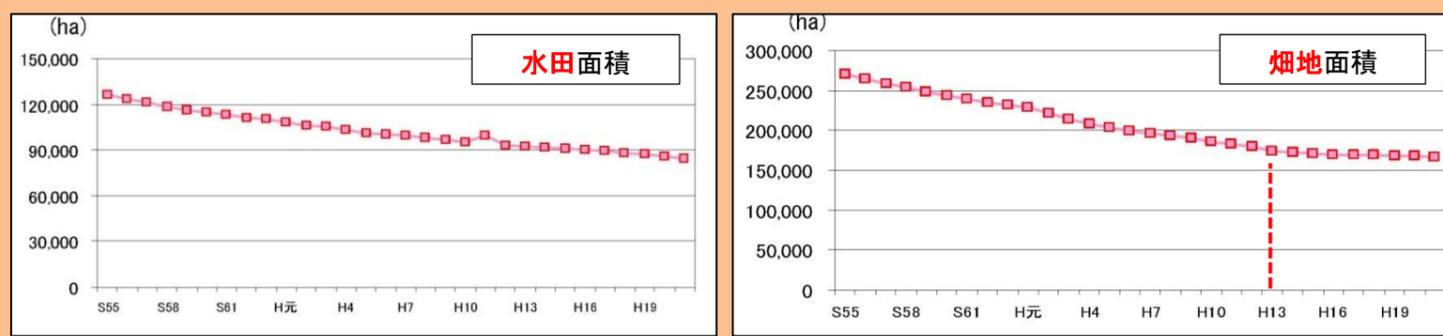
図7 ピーク後は減少を続ける工業用水量



地下水源が約8割を占める工業用水は、1988年(昭和63年)まで上昇、その後は、減少傾向が続いている。

(「やまなし水政策ビジョン」山梨県)

図8 農地面積の推移



山梨県では、1980年(昭和55年)以降、地下水涵養機能を有する**水田および畑地の面積が減少**している。なお、畑地面積は2001年(平成13年)ごろよりその傾向が鈍化している。

地下水の適切な利用のためには、水田や畑地の維持・保全、湛水事業などの実施が考えられる。

(「やまなし水政策ビジョン」山梨県)

■ 甲府地域の特徴

- ・ 甲府盆地の地下水位は低下していない
- ・ 地下水の利用量は減少しているものの、地下水の涵養機能を有する農地面積が減少傾向にあり、今後の地下水位低下が懸念される

■ 図面の利活用

- ・ 地下水保全を進めていく上で、地下水浸透柵設置や水田涵養の重要性を示す図面として利活用できないか
- ・ 節水が必要になった場合など、住民意識を向上するための基礎資料として利活用できないか